

令和元年 1 2 月 住まいのお手入れ

(1) 窓掃除 寒くなる前に

水滴残さず 仕上げの極意

* 太陽が低くなる時期は日差しが弱くなり、それまで気にならなかった窓の汚れが目につきます。

* おすすめは曇った日。晴れた日よりも汚れを見つけやすくなります。

* 窓掃除は、家の内と外の両側から同時に進めると効率的。

* 台所の窓は、油料理をした飛沫が付着。車通りが多い道沿いの窓は、排気ガスで汚れています。こういった汚れには、市販の窓用の洗剤を。

* 砂埃や花粉など油分を含まない汚れが主なら、洗剤を使う必要はありません。

・ 洗剤を使うとその分、拭き取りに時間がかかるから。

・ 水でサッと流して拭き取るだけ、または乾拭きで十分な場合も。

* 水や洗剤を使って掃除をするときのポイントは、拭き取り。

・ 窓が汚れて見えるのは残った水滴にホコリが含まれ、そのまま乾くから。

* 拭き取りにはスクイージーという水切りを使います。

・ 窓を拭くたびに、ゴム面の汚れをきれいにふき取ることが大事。

* 網戸掃除は、まず乾拭きから。柔らかいナイロンの毛がついたブラシで汚れを落とします。

(2019年11月16日 日本経済新聞記事より抜粋・引用)



住まいのお手入れ - 床 その2

症状 一歩くと部分的に沈む

☆考えられる原因

* 床組み下地材、または床材が原因。

☆診断の準備

* 歩くことで沈む部分の状況を確認。

* 自分の周り 50cm 程度が一緒に沈む場合は、床組みが問題。



*部分的に沈み、30~45cmの間隔で沈まない部分があるようなときは、下地材や床材の問題。

☆対処方法

●床組みが劣化している場合

*洗面所、台所、便所などの水回りでは、耐水、防水対策が悪いと床組み、下地材、床板が水分で腐って劣化。

*床下が土のまま防湿対策がされていない場合、湿気により木材が傷んでくることがあります。

①1階床組みは地盤面に近く、木造住宅の部位の中でも最も腐朽、虫害の被害を受けやすい部位。

②床下から確認できるのであれば、一人が床下に入り、誰かに上を歩いてもらうと状態がわかります。

③束が浮いているような状況であれば、地盤の沈下も考えられます。

④骨組みがたわむようであれば、下地材や床組みの劣化。

⑤修繕までの間は、沈む部分にベニヤなどを置いて、床を踏み抜かないようにします。

⑥再発を防ぐため、木部の耐久性を維持するには、床下の換気を良好に保ち、木部を常に乾燥させておくことが大切です。

*施工業者に依頼しましょう。

●床材が劣化している場合

①部分的に沈み込む場合は、床材や下地材の合板の接着不良。

②1階の床下の防湿対策がされていないと、湿気の影響で下地材や床材の接着がはがれてくることがあります。

③床下から確認して骨組みに問題がない場合は、床材のみの張替えで終わります。

④床材をはがすことが出来なければ、上に重ねて張る方法もあります。

*施工業者に依頼しましょう。

(参考：NPO法人家づくり援護会「わが家の診断&対処法」)

